

## ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（先端型）

(実施期間：令和2～令和7年度)

実施機関：立命館大学（総括責任者：仲谷 善雄）

## 取組の概要

本大学では、「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（特色型）」において、女性限定前倒し人事による女性研究者の積極採用や研究支援員制度等による研究力の向上に組織を挙げて取り組んできた。特色型の取組を通して見えてきた課題として、ポストドクトラルフェローから助教、ひいては無期教員（准教授、教授）へといたる行程にある「キャリアの谷」の存在が挙げられる。この谷を埋め、着実なキャリアパスを実現するため、本事業ではさらに一步踏み込んで、女性研究者のキャリアパスを「つなぐ」制度を創設する。具体的には、キャリア形成と研究リーダー育成を両軸に、研究者の着任から定着、発展へといたる研究者人生に寄り添う一連の施策（テニュアトラック助教プログラム、フューチャー准教授プログラム、フューチャーリーダープログラム等）として、本大学の研究高度化施策とも連動させ、学部・研究科の研究力および教育力の強化・拡充にもつなげる。

## (1) 評価結果

総合評価	目標達成度	取組	取組の成果	実施体制	今後の進め方
A	a	a	a	s	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

## (2) 評価コメント

女性研究者が上位職へ至るまでの行程に存在する「キャリアの谷」を克服し着実なキャリアアップを実現することを支援するため、「つなぐ」制度を創設し、キャリア形成と研究リーダー育成を両軸とし事業を展開した。学長のリーダーシップの下、意欲的な目標を掲げ、国際的に活躍できる女性研究リーダーの育成を推進する「フューチャーリーダープログラム」、自然科学系の若手女性研究者や女性無期雇用教員（准教授、教授）の増加を目指した「フューチャー准教授プログラム」や「自然科学系無期女性教員積極採用支援制度」といった特色ある取組を構築した。これまで、女性准教授17名が教授へ昇任し、女性研究者6名が副学長・理事相当、部局長相当へ就任、機関初の副総長・副学長が誕生するなど、女性の上位職、管理職への登用が進んだことは評価できる。「フューチャー准教授プログラム」及び「自然科学系無期女性教員積極採用支援制度」は共に、理系5学部へのヒアリングを終え運用を開始した段階であり、今後の効率的な本格運用を期待する。

- ・ **目標達成度**：全学の女性教員在職割合及び無期女性教員在職割合、自然科学系の女性教員在職割合及び無期女性教員在職割合に係る目標を達成したことは評価できる。今後は、「フューチャー准教授プログラム」及び「自然科学系無期女性教員積極採用支援制度」の本格運用により、全学の女性教員新規採用割合に係る目標を達成することを期待する。
- ・ **取組**：「フューチャーリーダープログラム」や「自然科学系無期女性教員積極採用支援制度」の

創設に当たっては、理系5学部へのヒアリングを実施し、制度案の改善点や要望を把握した上で制度設計を行っており評価できる。今後の取組の実施とその成果を期待する。また、コロナ禍にもかかわらず、インターネットを活用し効果的に国際共同研究を実施する方策を検討し、女性研究者による国際共同研究の支援を行ったことは評価できる。

- **取組の成果**：男性教授が減少する中、女性教授の採用が進み、また、17名（内自然科学系4名）の女性准教授が教授へ昇任し、女性教授は27名増加しており評価できる。但し、既存の取組によってもたらされた成果が多々あり、所期の計画に沿って取組を進めた成果が十分挙がっているとは言えない。新たに構築したプログラムや制度の実質的な運用を進め、成果の具体化を図ることを期待する。
- **実施体制**：総長がダイバーシティ&インクルージョン推進（D&I推進室）に向けて声明を発表するとともに、学長が本事業の内容、成果及び課題を明確に把握し、リーダーシップを発揮することにより目標の実現に取り組んでいることは高く評価できる。本事業実施母体である学長直轄の「リサーチライフサポート室」が総長直轄の「D&I推進室」と連携を図りつつ、学園全体の合意を得ながら取組を進めていることは高く評価できる。
- **今後の進め方**：補助期間終了後、取組を継続、発展させるための資金が十分に確保されており、また、最終年度の目標の達成へ向けた姿勢も明確であり評価できる。「フューチャーリーダープログラム」と「自然科学系無期女性教員積極採用支援制度」の効率的な運用、成果の具体化を期待する。